

あけぼのすぎ

都立府中療育センター新聞 第437号 発行日 平成26年4月30日

着任挨拶

しばやま たかお

副院長 柴山 隆男



4月1日付けで、前任の新谷先生の後任として着任いたしました、柴山と申します。当センターに勤務する前の医歴は、卒業後の大学および大学関連病院（3病院で合計7年間）、東京都立駒込病院（20年間）、公社豊島病院（11年間）です。駒込病院では肝臓の臨床、豊島病院では救急医療を中心に行っていました。従って、療育の分野は経験が無く皆様にはかなりご迷惑をおかけすると思います。院長の柳瀬先生および皆様には色々とお教えいただきながら伝統ある府中療育センターの発展にお役に立ちたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

府中病院の跡地により快適で災害時対応を考慮した新府中療育センターの建設計画が着々と進んでおり、本年度は、旧府中病院の解体工事が始まります。皆様には通行・騒音などご迷惑をお掛けすると思いますが、御協力のほど宜しくお願いいたします。将来、新しい建物になっても当センターの理念は変わる事はありません。当センター入所部門は「病院」、「医療型障害児入所施設」、「療養介護事業所」の3つの機能を併せ持ち、入所された利用者に医療・介護・機能訓練・生活指導・教育と総合的な療育を提供していきます。さらに通所部門もあり、当センターでは様々な職種のプロが働いています。個々の職員がそれぞれエキスパートとしての高みを目指し努力することは大切ですが、療育のセンターとして東京の中心的な施設となるためには、全職員が垣根を取り払って話し合い、協力し力を合わせて一丸となることが大切です。私も皆様の仲間に加えていただき、当センターが安全で良質な医療・療育のサービスを提供できるように頑張る所存ですので、どうぞ宜しくお願いいたします。

退任挨拶

しんたに まさひろ

前副院長 新谷 昌宏



この度4月1日付で松沢病院に転任いたすことになりました。たった1年という短い期間でしたが本当にお世話になりました。

思えば昨年4月、府中療育センターに着任した時は、重症心身障害児者の療育・医療についてはほとんど知識のない状態でした。それでも院長の柳瀬先生をはじめ、医局の先生、訓練科のスタッフ、看護師、パラメディカル、事務の方々と一緒に仕事をしていく中で、センターのもつ役割、そこで働くことの意義など、私なりにいろいろと考えるところがありました。

まず感じたことは、まさにここで目の前で行われていることこそが医療の原点だということです。自分の意思を思うように表出できない障害者の方々の思いを、人間としてじかに接する中で汲み取り、細心の注意を払って援助の手を差し伸べる。現在の複雑に分化した先端的な医療の中では隠されてしまい、そこに従事している人間にさえ意識されなくなっている、医療の本来の姿がそのまま存在している。目を見張る思いでした。

しかし1年も経つと、センターの抱えているいろいろな問題もやはり気になってくる。さて今年度は、皆さんとどんな方向に向けてどんな努力をしていこうか、そんなことを考えていたところでした。とても残念な気がしますが、仕方がありません。

今年度からは私の本来のフィールドに戻るようになりますが、この1年に体験したことは医療者としての私にとって大きな財産になったと思っております。そして、それだけでなく私個人にとってもかけがえのない1年でありました。今後とも皆様と何らかのかたちでお付き合いが続けられれば、と思っております。よろしくお願いいたします。

着任挨拶

いしかわ たかとし
内科医長 石川 貴敏

4月1日に大島保健所から着任しました、石川貴敏です。5-A 病棟の担当になります。前任地では、台風災害の現場対応という貴重な経験をさせてもらいました。伊豆大島は小さな町ですが、入所者100人以上の障害者施設が3ヶ所もあります。幸いなことに土砂災害はまぬがれましたが、島民の避難を検討した際に最後まで施設入所者が対象とならず、障害者施設は何かのときは自助努力しかないのだろうかと思いつつながら転勤になりました。また、今年は大島の障害者施設でもインフルエンザの患者が多数発生しました。ワクチン接種率が100%だから安心とあなどっていた施設は肩透かしを食ってしまいましたが、感染対策に100%はありえません。これもいい教訓でした。私は臨床、行政でも感染症ばかりやってきたため、療育分野は初めてですが、自分の経験がお役にたてるよう努力したいと思っています。どうぞ、ご指導のほどよろしくお願ひします。

着任挨拶

まつした ひろみ
看護科長 松下 博美

新緑が鮮やかになってまいりました。4月より、看護科長を勤める事になりました松下です。私は、2年前に初めて府中キャンパスを訪れた時の第一印象は、目に鮮やかな新緑と清々しい空気に囲まれた環境の素晴らしさでした。あれから3年目の春を迎え、今また、心機一転、頑張らなければという決意を新たに致しました。センターで日常的に行われている、重症心身障害児・者の療育（看護）の業務に携わる事になり、一般病院では当然のように思われていた「基本的な看護」を再認識するとともに、センター特有の実践の難しさを痛感しております。しかし、利用者に、快適な生活空間と、最善の医療・療育を提供する上で最も大切なことは、利用者と直接関わる職員が一体となり、チームで活動していかなければならないということです。現在も、多くの職種が協力し合い「チーム療育」を実践しておりますが、さらに看護部門でも、協力体制を強化し、頑張っていきたいと考えております。

着任挨拶

かわだい たつこ
看護担当科長 川代 たつ子

こんにちは。4月1日付異動で、病院経営本部大塚病院から参りました、看護担当科長の川代と申します。久しぶりの電車通勤、満開のさくらに迎えられ日々緑が濃くなっていくのが楽しくなっています。これまで一般病院、精神科病院、研修センター、公社の病院等で勤務して参りました。前所属の大塚病院では、新バージョンの病院機能評価を平成26年1月に受審し、中間評価結果は再審査項目もなく無事終了しました。確実に職員の協力が得られた結果と実感しています。今回の異動発令の療育分野は初めてですが、新しい分野に取り組める機会を頂いたことに感謝し、一日も早く慣れて微力ながら府中療育センターの発展に努めて参りたいと思います。多職種協働が不可欠との院長はじめとする府中療育センター先輩職員の皆様の言葉をしっかり受け止め、自分にできることを確実に実施していきたいと思ひます。よろしくお願ひ致します。

着任挨拶

はっとり としお
看護担当科長 服部 俊夫

4月1日付けで、地方独立行政法人 東京都健康長寿医療センターから異動してまいりました、看護担当科長の服部俊夫です。入都は北療育医療センターです。また、看護師の資格を取得する前は、民間の通所授産施設の指導員をしていました。障害を持ちながらも一日一日を精一杯過ごしている方々の姿に励まされながら新人時代を過ごし、その経験が今でも宝物になっていると感じています。看護科の理念である「利用者が幸せな生活を送れるよう、安全でやさしく、思いやりのある質の高い療育・看護」を皆さんと共にさらに推進していきたいと思ひます。不慣れな点は多々ございますが、精一杯頑張っていきますのでどうぞ、よろしくお願ひします。

退職挨拶

ながた じんろう
前内科医長 永田 仁郎

3月に定年退職いたしました。気づいてみればいつの間にか25年間という医師としてこれまでセンターに勤務された医師の中で最も長く勤務したことになるかと思えます。これまで健康で仕事を続けられたことにひとまずほっとしています。皆様に迷惑をかけたことも多かったと思いますが、それにも拘わらず協力し支えていただいた多くの皆様に感謝しています。本当に有り難うございました。

障害療育では医師としての立場だけではなく多面的なものの見方が必要になってきます。時が変わり社会環境が変わるにつれ、障害療育の現実もまた揺れ動いてきた印象があります。この原稿を書きながら25年間で感じた何かを伝えようと懸命に考えましたが、考えるほどに難しくどうしても適切な言葉が浮かびません。宿題にさせて下さい。

4月からも非常勤医員として勤務しています。これからもよろしくお願ひします。

退職挨拶

とみなが やすこ
前看護科長 富永 ヤス子

在任中の思いで・・・嫌になったことはありません。スタッフの事、他部門の仕事などが、見えやすい規模の施設で働けて幸せでした。

府中療育センター及び後輩へ・・・「利用者を思いやる気持ち」は天下一品尊敬に値します。また、ケアや療育がうまくいかなかった時に、自分達の行動を振り返る行為は素晴らしいので、自分を責めず「どうしたら・・・」を考え続けて下さい。

退職後は・・・板橋区内の小さな病院で働き続けます。(少しトーンダウンして)

平成25年度「福祉サービス第三者評価」の結果について

事務長 鈴木 薫

福祉サービス第三者評価は、第三者の評価機関が様々なデータやヒアリング、施設調査などをもとに、福祉施設の運営やサービス等について客観的な評価を行い、その結果をインターネット等で広く公開する制度です。

当センターでは、利用者本位のより良いサービスの提供を目指して、平成17年度から継続して受審しているところです。

平成25年度については、特定非営利活動法人福祉経営ネットワークによる第三者評価を受審しました。この度、評価結果を受領しましたので、その概要を報告します。

- 入所（障害児入所支援（旧重症心身障害児施設））
 - ・ご家族へのアンケートでは、総合的な感想は、「大変満足」「満足」の合計は92.9%で、前年度よりも約18ポイント上昇しました。
 - ・施設の「組織マネジメント」、「サービス提供」に関する各標準項目の実施状況に関する評価は、すべての項目（131項目）について満たしているとの評価結果となりました。
 - ・特に良いと思う点として、利用者の状態に応じて、総合力、専門性を発揮して、質の高いサービスを提供していることなど3点、さらなる改善が求められる点として、利用者の終末期対応を見通したしくみの導入など3点があげられました。
- 通所（障害児通所支援（旧重症心身障害児（者）通所施設））
 - ・ご家族へのアンケートでは、総合的な感想は、「大変満足」「満足」の割合は100%で、非常に高い結果となりました。
 - ・施設の「組織マネジメント」「サービス提供」に関する評価結果は、入所と同様でした。
 - ・特に良いと思う点として、日々の朝夕のミーティングでミニカンファレンスを行い、利用者に適した支援ができるように努めていることなど3点があげられました。一方、さらなる改善が求められる点として、利用者の呼称について統一を図っていくことなど3点があげられました。
- 今後、入所・通所とも良い点はさらに充実を目指し、改善を求められた点については、各部門で改善に向けた検討、取り組みを進め、より一層のサービス向上に努めていきます。

なお、詳細については、玄関ロビー及び通所待合室の本棚に「福祉サービス第三者評価結果」と題したファイルがありますので、そちらをご覧ください。また、評価機関がウェブ上で公開した後は、当センターのホームページからもご覧になれます。

人事異動

	事務室	医局	薬剤科	検査科	栄養科	看護科	訓練科	指導科	合計
退職者数	3	2		1		15		2	23
転出者数	4					5	1	4	14
転入者数	5	1				8		5	19
新規採用者数	1					8			9
再任用者数	1		1	4	3	9	1	1	20
再雇用者数	1								1

知事視察

4月9日（水）、舛添知事が府中療育センターに視察のため来られました。

都知事は、柳瀬院長から幹部職員の紹介、センター概要説明等を受けられた後、通所、病棟に向かい、熱心に療育センターの現場を視察されました。その後、大会議室にて懇談が行われ、幹部職員と療育センターの現状などが話されました。

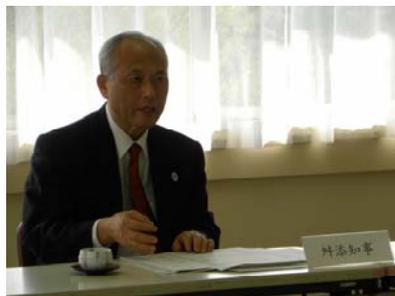
写真は視察当日の様子です。



柳瀬院長の先導で院内を視察



4-1病棟視察の様子



大会議室における懇談の様子



センター新聞編集委員



委員長 事務次長 瀬川 裕之
 医局 齊藤 菜穂、 看護科 荒畑 恵子、山本 裕子、 栄養科 藍澤 登、
 訓練科 関口 祐子、 指導科 首藤 悠、 検査科 岩井 昇 事務室 栗原 拓

〒183-8553

東京都府中市武蔵台2-9-2

東京都立府中療育センター

電話 042(323)5115

--*ホームページもご覧下さい*-*-*

<http://www.fukushihoken.metro.tokyo.jp/fuchuryo/index.html>